

金澤名誉院長のご逝去を悼むとともに、先生に心より感謝申し上げます。

院長 小川哲史

2022年11月19日、金澤名誉院長がご病気によりご逝去され、11月24日に高崎市内の葬儀場で告別式が挙行されました。

先生は、茨城県立水戸第一高校から群馬大学医学部に進学され、昭和49年にご卒業後、同第二内科および関連病院で研究や臨床に従事されました。昭和57年に当院の前身である国立高崎病院に内科医師として赴任され、昭和59年に循環器科医長、平成13年に副院長、平成19年からは病院長に就任され、平成24年に退職されるまでの長期間、当院および地域医療の発展に貢献されました。



そのご功績は多岐にわたります。まず循環器科医長として、救命救急センターCCUの立ち上げと運営、新設された循環器科の診療体制の整備、副院長としては、新病院建替え整備、病院機能の改革、地域医療支援病院や地域がん診療連携拠点病院の認定など、そして院長にご就任されてからは、新病院の竣工、地域災害拠点病院や病院機能評価の認定、地域連携の強化や病院経営の健全化、医師や看護師の確保、DPCへの移行など、また地域医療再生基金の獲得等にも尽力されました。このように当院の改革、立て直しとともに、現在の高崎・安中地域全体の医療体制の基礎を築かれました。その際、先生は高崎市医師会をはじめ高崎市さらに国の行政とも綿密な連携を図り、地域全体の強固な協働体制を確立されました。その体制は「高崎モデル」と称され、現在も国立病院機構で模範とされています。さらに平成24年に名誉院長になられてからも国立病院機構理事長の任命により、経営改善担当の本部顧問として他の地域の病院の経営改善に尽力されました。

先生は非常に温かな性格であるとともに、周囲の意見を広く聞き、的確な決断と粘り強い実行力で様々な業務を遂行されました。部下からの人望も厚く、患者さんはもちろん病院職員からも非常に尊敬され、かつ慕われておりました。そして何より、先生ほど当院および職員、そして地域を愛した先生はいらっしゃいません。

職員一同、深く先生のご逝去を悼み、生前のご功德を称えるとともに、謹んで哀悼の意を表し、今後とも先生のご功績をしっかりと受け継いでいく所存です。登録医の先生方や市民の皆様、今後ともご指導ご鞭撻、またご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。